

# 廣讚寺

## ジャーナル

第25号

(発行所)

真宗大谷派  
松岡山 廣讚寺中村区城屋敷町3-30  
TEL (052) 411-5301  
FAX (052) 411-5341

### 惠信尼公の生涯

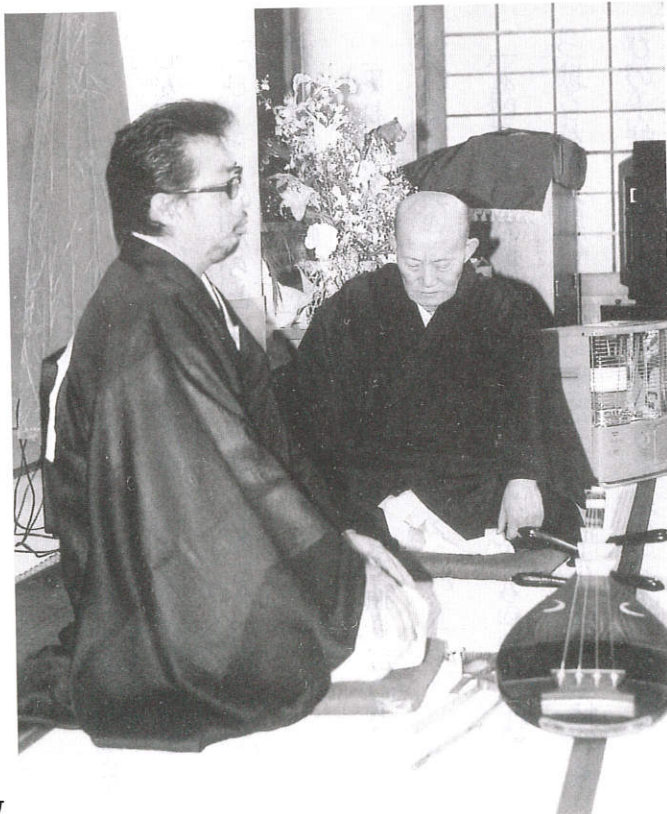
大谷嬉子(著)から

惠信尼公の手紙(現代語訳) 第三通に夢中の話として『ただ光のまん中が仏さまのお頭から発している光のようでお姿は拝見することはできません。答えてくれる人は誰かわかりませんが「あれは法然上人ですよ。勢至菩薩その方ですよ」と申しますので「もう一つの御影は」と聞きますと「あれは観音菩薩であらせられますよ。あれこそ善信の御房ですよ」というのを聞いたかと思うと目が覚めました……』

晩年の聖人の家庭は豊かではなかったと思う。聖人は末娘と二人での寄寓生活。妻の惠信尼は古里で農耕生活。そうしたなかでの聖人の往生を報告した娘からの手紙についての返書の一節である。

ここで大事なことは光り輝くということである。南無不可思議光である。私たち浄土の真宗は、阿弥陀仏に手

を合わせ阿弥陀仏の名をとなえることである。慈悲の光を拝することによってわが身の内のともしびを点火させて頂くことである。この世に生命の根元たる光明をあまねくゆきわたらせることである。



相好ごとに百千の

ひかりを十方にはなちてぞ

つねに妙法ときひろめ

衆生を仏道にいらしむる

本澄寺  
明仁師 説教

## 住職童話

夏の午後のことです。和尚さんは一人で何かぶつぶつつぶやきながら草をとっておりました。そうすると、ひとさし指の先を何か冷たいものがすいついたような気がしました。何だろうと思い、同じ場所に手を持っていくと、また冷たいものが今度は前よりもちよつと強い力でパクリとききました。和尚さんは何かいるなと思い、庭石のかげに身をかがめそこをのぞいてみました。

「なーんだ殿様じゃないか」和尚さんは安心していいました。そこには顔なじみの青い殿様蛙かえるさんがいたのです。蛙の方も上目をつかつていいました。

「和尚さんか」

「安心したよ」

「でもその草はとらないでくれよ」

「天敵の青大将のやつがやってくるから。その草はおれ

のヨウサイのようなものだ」

「すまん、すまん、そうだったか。じゃあ残しておくよ。だが今年も青大将はまだでてこないようだが」と和尚さんがいいました。

「そうですか。今年はまだでてきませんか。そいつは安心安心。だが、ひよつとしたら」

「ひよつとしたらとはどういうことだネ」和尚さんは身をかがめ殿様蛙に質問をしました。

殿様はさびしそうに目をぱちくりして独り言のようにいいました。

「あいつ去年の秋に『ねずみもいなくなったしおれも引っ越しをするか』といってたよ。そうだ竹林の赤蛙、ちびの土蛙、木の上の雨蛙のやつも気がつけばみんななくなっているよ」

和尚さんはここで殿様に手を合わせて何かまたブツブツとつぶやきました。

## 句抄

さく女

ろう梅を一輪活けて米寿かな

まるなって祝いの席の寒椿

ほのぼのとひなまつりの歌ききたけれ

ひなの日の行事あれこれ考える

鳥が泣く窓開けようよ鳥が鳴く

## 20組懇親会に参加して

都三

石川県の能登出身の竹原了珠師の題名「隣る人」のお話を聴いた。

『雪深い能登の山中で生活していると人間に会いたくなく

るものだ。大雪をかき分けて訪れてくれたのかと思うと一段と懐かしさがわいてくるものだ。

都会の生活は便利がよくなりすぎて、人間としての会話がなない。メール・パソコン・ワープロすべて機械に振り回されて人間の声はしない。

学校教育も教育委員会・校長会・PTAの発言に振り回されて生徒の面倒をみる暇もないくらい忙しい。児童の方も「あれやりなさい」「これやりなさい」「テストテスト」で友情を結ぶ暇もない。

このように現代は人間の心が失われていく世界だ。隣る人とは心をわって話し合える人のことだ。一昔前までは村中が隣る人であったが、今はそうではない。寂しいことだ』

講話のあとで参加者全員でちょっとした食事会をした。お酒がでると急に話し掛ける人もあつたりして、笑顔で多くの友ができた。

※行事予定 (四月)

四月五日(月)二時 常任委員会

十日(土)七時 同朋委員会例会

十九日(月)二時 学習会

二十八日(水)十時 二十八日講・女人講

『親鸞聖人七百五十回御遠忌法要』

廣讚寺から 京都本山へ  
団体参拝します。

※来年

平成二十三年四月二十四日(日)

みなさんご参加ください。

※行事予定 (五月)

五月五日(祝)

復興永代経執行

午前十時より おつとめ おとき  
説教 本澄寺 明仁師

午後は特別プログラムとして  
有志による詩吟・民謡・舞踊など  
廣讚寺座による演劇もあります

五月八日(土)七時 同朋委員会例会

十九日(水)二時 学習会

二十八日(金)十時 二十八日講・女人講

